

平成31年度

南伊豆町教育委員会

自己点検・評価報告書

令和2年7月

南伊豆町教育委員会

目 次

○ 趣旨、評価対象等	1 ～ 3
I 昨年度評価結果への対応	4 ～ 9
II 平成 31 年度 教育委員会の自己点検・評価シート	10 ～ 12
① 教育委員会の活動	10
② 教育委員会が管理・執行する事務	10
③ 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務	11 ～ 12
III 点検・評価への学識経験者の知見	13 ～ 14

I. 昨年度評価結果への対応

1. 教育委員会の活動

令和元年度分評価の指摘事項	令和2年度改善状況
① 「教育委員会会議の運営改善」に関して、教育委員会の施策を浸透させるため、最前線で活動している係長が教育委員会に出席することは望ましいことであるので継続されたい。	① 会議への係長の出席も継続し、担当係の事業について詳細説明を行った。
② 「議事録の公開、広報、公聴活動の状況」に関して、教育委員の活動に関して町民への周知がさらに進むよう何らかの方策をお願いしたい。	② 昨年同様、町広報誌に教育委員の学校訪問時の様子を掲載するとともに、教育委員会会議録の町ホームページ上での公開も継続実施している。
③ 「教育委員会と首長との連携」に関して、「総合教育会議」は例年通り2回開催、町長の学校訪問（中体連激励）も継続して執り行われたとのこと。子供たちと町長のとの距離感が近くなることは大変喜ばしい。教育現場への理解を深める意味でも継続されたい。その他にも、登校時の見守り活動、中体連・中文連の大会観戦等も個人的に行っているとのこと。教育に深い関心を持っていただいているのは大変ありがたい。	③ 総合教育会議は、前年と同様に2回開催した。町長の学校訪問も6月に中体連出場を踏まえ町内2中学校を訪問、3年生教室と一緒に給食を食しながら最後の中体連に出場する3年生を激励した。

① 「重要な工事に関すること」に関して、全小学校普通教室への空調設置等大規模な工事を多く実施している。首長が教育に理解を示しているからこそ可能なものであり大変ありがたい。空調設置については一般町民も喜んでいる。	① 当該年度は、小学校に続き、全中学校の普通教室へ空調を導入した。 折りしも、令和２年度は新型コロナウイルス感染拡大により臨時休校に伴う夏季の授業日が増加したことから全小中学校普通教室への空調設置は大変効果的と思われる。 また、南中小学校においては、長年の懸案であったグラウンド改修を駐車場拡幅工事と併せて実施。雨天後も数時間後には使用できるようになり利便性が高まった。 南伊豆中学校においては体育館照明のLED化及び照明落下防止工事を実施。省エネ化及び体育館利用時の生徒の安全が確保された。
--	--

① 「幼児教育」に関しては、こ小連携（こども園と小学校のとの連携）強化に指導主事、幼児教育アドバイザーが活躍したことは大変ありがたい。連携の幅を広げるためさらなる活躍を期待するものである。 ② 「高等学校教育との連携」に関しては、分校産の野菜等の給食食材への活用の検討は素晴らしい試み。31年度に実現させたとのことであるが、小中高の連携、地元の魅力の再発見にも繋がることであるので継続されたい。 ③ 「学校教育全般」 ・多人数学級での授業内容浸透への補助等の目的で任用している町支援員（臨時教諭）の予算が継続して確保されていることは大変ありがたい。強く継続を望むものである。 ・定期券配付については状況により回数券利用への変更も奨励したとのこと。保護者負担は変わらないことから効果的な施策と考える。今後も保護者の理解を得つ	① 賀茂地区幼児教育アドバイザー、指導主事については、継続して活躍している。今後は、アドバイザーの後継者養成も視野に入れて進めて行くこととなりそうである。 ② 当該年度に分校産の野菜等の給食食材への活用は実現。その他にも、分校生が考案した給食メニューを実際に給食で提供するとともに、分校生作成の紙芝居を実演。連携を深めるとともに、分校生の活動を小学生にも周知できた。 ③ 「学校教育全般」 ・町支援員（臨時教諭）については、授業に支障のない最低限の人数の確保はできた。 ・回数券への利用変更は継続している。 - 高校生定期券購入費補助についても周知が図られたため増加傾向にある。
---	--

つ進められたい。 余談ではあるが、高校生の定期券購入費も補助を開始したとのこと。利用者も増加傾向とのことであるのでこちらも継続実施をお願いしたい。 ・子どもに対する残虐な事件が多発する傾向の昨今、学校においては見知らぬ人の車に乗ってはいけない、見知らぬ人と話をしてはいけないなどの指導がやむなく行われ、人間関係が希薄化している。このような状況下、登下校時の子どもの安全を守るための「ながら見守り」啓発チラシの各戸配付は効果的と思われる。継続実施されたい。 ④ 「図書館の利用促進」に関しては、詩人石垣りん氏の生誕 100 年記念事業について、記憶に残る事業を期待している。 ⑤ 「スポーツ・レクリエーションの振興」に関しては、賀茂地域広域連携会議も発足し、活動も活発	・他県での複数の小学生が被害者となった交通事故も発生したことから、交通安全面での啓発も含め継続実施した。 ④ 詩人石垣りん氏の生誕 100 年記念事業に関しては、令和 2 年秋に記念式典等の開催に向けて準備を進めてきたが、新型コロナウイルス感染拡大の先行きが不透明なことから、記念事業の時期、内容を含め根本的な見直しを検討している。 ⑤ 31年度の市町対抗駅伝競走大会は町の部12チーム中10位という結果に終
--	---

化していくなか、選手不足に悩む「市町対抗駅伝競走大会」への合同チームでの参加も視野に入れて検討をお願いしたい。 ⑥ 「歴史・文化資源等の活用」に関しては、郷土館 1 階に日詰遺跡出土品等展示室開設の準備を進めているとのこと。賀茂地区においても最大級の遺跡であるのでその周知のためにも早期に開設されたい。	わった。近隣市町との合同でのチーム編成については、他市町の意見等を伺いつつ検討していきたい。 ⑥ 郷土館 1 階の日詰遺跡出土品等展示室は町ボランティアガイド協会、日本考古学協会員外岡龍二氏等の協力のもと、令和元年 8 月にリニューアルオープンした。見学者の増加策が今後の課題である。
---	--

「教育委員会事務局全般」 ・町内においても学校では「教員の多忙化」「多種多様な児童生徒への対応」地域においては「高齢化・生涯学習社会」という時代の流れの中で、保護者や住民のニーズも多様化し、これに見合った対応が求められている。 このような状況下、事務局においても職員が少ない中よくやっ ているという印象は受ける。「賀茂地域教育振興方針」も策定され、今後、学校教育、社会教育ともに広域連携という形の中で進めていくことが主流になってく ると思われる。その流れの中で、賀茂地域において情報共有、事業の共同実施等を検討し、効率的かつ効果的な教育行政を推し進めるとともに、町教育大綱の基本理念「ふるさとを愛し、心豊かな人を育む」の実現のための事業も継続して実施されたい。	近隣市町との広域連携については、指導主事・幼児教育アドバイザーの共同設置に加え、圏域内小中学校で使用する校務支援システムの統一化、社会教育部門では市町対抗駅伝競走大会の合同練習会の開催、名勝伊豆西南海岸保存活用計画策定業務等も実施中で加速傾向である。 今後もスマートな行政運営への転換の方向性は継続される見通しであることから、可能性のある事業に関しては積極的に広域連携を推進してくとともに、「賀茂地域教育振興方針」、「南伊豆町教育大綱」を指針とした教育を学校、地域、町民とともに推し進めていきたい。
---	---

「30 年度分評価の指摘事項」は、「平成 30 年度自己点検・評価報告書」、「Ⅲ. 点検・評価への学識経験者の知見」の指摘事項をまとめたものである。

Ⅱ－１ 平成31年度 南伊豆町教育委員会の自己点検・評価シート

大項目	中項目	小項目	点検評価
① 教育委員会の活動	(1) 教育委員会の会議の開催	①教育委員会会議の開催回数	定例会12回を開催した。
		②教育委員会会議の運営改善	準要保護の認定案件など、取り扱いに注意を要するもの以外は極力事前配付に努めた。
	(2) 教育委員会の会議の公開、保護者や地域住民への情報発信	①教育委員会会議の傍聴者の状況	一般の傍聴者なし。
		②議事録の公開、広報、公聴活動の状況	会議録の公開請求はなし、町広報誌に教育委員の学校訪問時の様子を掲載するとともに、教育委員会会議録を町ホームページ上で公開している。前教育委員で12年間委員として活躍された白井善吾氏が文科大臣表彰を受賞されたことも報道機関へリリースし委員の活動についての周知を図った。
	(3) 教育委員会と事務局との連携	教育委員会と事務局との連携	定例会への事務局長・係長の出席、委員研修への職員の同行を実施した。
	(4) 教育委員会と首長との連携	教育委員会と首長との意見交換会の実施	総合教育会議は、前年と同様に2回開催した。町長の学校訪問も6月に中体連出場を踏まえ町内2中学校を訪問、3年生教室で一緒に給食を食しながら最後の中体連に出場する3年生を激励した。
	(5) 教育委員の自己研鑽	研修会への参加状況	研修会は前年度に続き実施。静岡県市町教育委員研修会に（於：浜松市）に全委員が参加し、目標を定めるとともに、町独自の研修として新居開校、掛川城築城を視察した。
	(6) 学校及び教育施設に対する支援・条件整備	①学校訪問	6月13日・14日に3小学校、2中学校を訪問、校長から説明を受けた。
②所管施設の訪問		図書館、武道館（町史編さん室舎）、石廊崎オーシャンパーク、宮前デニスコート、南伊豆郷土館、道の駅内みいずギャラリー（日詰遺跡展示）を訪問、職員等から説明を受けた。	
② 教育委員会が管理・執行する事務	(1) 教育行政に関する一般方針を定めること		「平成31年度 南伊豆町の教育」を作成
	(2) 教育委員会の事務局及び教育機関の職員の罷免及び懲戒を行うこと		教育委員会事務局人事を町長及び総務課長に要望するとともに、学校用務員（町職員）人事異動（案）について2月の教育委員会で現状報告を実施した。また、小中学校教職員人事異動の内申案について2月の委員会で承認された。なお、平成29年度から智茂地区指導主事
	(3) 教育委員会に関する条例等の制定・改正等を行うこと		規則制定1件、規則改正2件、要綱制定1件、要領制定1件
	(4) 教育委員会所管の学校その他の教育機関の設置又は改廃に関すること		当該年度の該当はなかった。
	(5) 県費負担教職員の罷免等に関すること（地教行法38条）		教職員の懲戒はなかった。
	(6) 県費負担教職員の服務の監督の一般方針を定めること（上記法43条）		年度当初、各学校長から服務について教職員に指導、県教委でも学校訪問時に指導を実施している。
	(7) 重要な教育財産の取得を申し出たり、教育機関の敷地を選定すること（上記法28条）		重要な財産取得、敷地選定はなかった。
	(8) 重要な工事に関すること		南中小学校運動場の改修工事、南伊豆中学校の屋内運動場照明のLED化、町内全中学校普通教室への空調設置等を実施した。
	(9) 教育に関する事務の管理・執行状況の点検と評価（上記法26条）		点検評価に関する有識者委員会を2回開催。事務局からの原案説明を実施し審議及び委員からの知見をいただいた。報告書は議会に提出し、町ホームページに掲載し広報した。
	(10) 教育委員会付属機関の委員の任命又は解任		任期満了となった付属機関の委員（社会教育委員等）及び人事異動等により変更となった委員に委嘱書等を交付した。
	(11) 請願・陳情・訴訟についての処置の決定		当該年度の該当はなかった。
	(12) 教科書採択に関すること		令和2～5年度使用の小学校用の教科用図書及び令和2年度使用の中学校用「特別の教科道徳」を除くすべての教科用図書について採択した。

Ⅱ－２ 平成31年度 南伊豆町教育委員会の自己点検・評価シート

大項目	中項目	小項目	細項目	担当係	点検評価 (上段：実績 下段：評価)
③ 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務	ふるさとを愛し、心豊かな人を育む	1 子どもの「生きる力」を育む、魅力ある充実した教育を推進します	(1) 家庭教育	社会教育係	●家庭教育支援員（2人）による、新入生の保護者を対象にしたミニ講座を実施した。 ●家庭での教育力低下が叫ばれる中、若い保護者に簡潔明瞭に家庭教育の大切さを伝えることができた。
			(2) 幼児教育	学校教育係	●こども園と小学校の連携強化（こ小連携の強化）を目的に開催している園保育教諭と学校教諭をメンバーとした連携会議も継続している。賀茂地区指導主事及び幼児教育アドバイザーも園や学校との信頼関係が構築され何でも相談できる良い環境にある。 ●以前に比べ、就学前児童の状況が事前に把握できることと関係者間の信頼関係が深まったことで早期の対策が可能となった。
			(3) 学校教育全般	学校教育係	●遠距離通学児・生徒家庭の財政負担軽減のため通学定期券の購入配付を行った。また、保護者が自家用車で下校対応する児童生徒については回数券利用を提案し、理解が得られた場合は回数券を配付した。●多人数学級での授業内容浸透への補助、多動児等一人の教員ではクラス全体への対応ができない場合には臨時教諭を雇用し効率的な授業進行に努めた。 ●定期券配付については状況により使用頻度の少ない児童生徒も見受けられることから、回数券への変更等も引き続き奨励していきたい。●臨時教諭の任用については教員の多忙化解消にも一役買っているが、適正な人材の確保が困難な面もあり対応に苦慮している。また、臨時教諭ありきの状況が正規教員のスキルアップの妨げとなることも危惧されることから賀茂地区指導主事の指導、研修参加等によりスキルアップを実施し意識改革を図っている。
			(4) 小学校教育	学校教育係	●施設整備面において、下地の石等が露出し運動の際危険であった南中小学校運動場の改修及び駐車場整備を実施した。●教員の指導力向上を目的としてH29年度から賀茂郡内5町で3人の指導主事を共同設置し、教員の指導にあたっている。 ●安全安心な教育環境づくりに努めたが、総体的に町有施設の老朽化は進行している。●教員の指導力アップで児童の学力向上に繋がりたいが即効性はないため地道に取り組んでいきたい。
			(5) 中学校教育	学校教育係	●施設整備面において、全中学校普通教室への空調設置、南伊豆中屋内運動場照明のLED化を実施した。●部活動での県大会等出場の際の保護者の負担軽減のため宿泊費、貸し切りバス代等の補助を実施した。経費節減のため町マイクロバス、10人乗りワゴン車の活用にも留意した。 ●安全安心な教育環境づくりに努めたが、総体的に町有施設の老朽化は進行している。●部活動への励みに繋がるが、近隣市町での開催の場合の対応等に課題がある。
			(6) 学校給食	学校教育係	●安全な給食提供のため南中小・東小の施設の修繕等を行った。●給食調理を委託された事業者も給食への興味関心を更に高めることを目的として、普段立ち入ることができない給食室で調理員と保護者、子供たちが地場産品を使用した調理実習及び試食を行う「親子給食調理体験」を開催するなど美味で安全な給食の提供をPRしている。●地産地消、高校との連携を目的に給食食材に南伊豆分校で栽培された野菜を取り入れた。 ●今後は少子化による児童生徒数の減少、給食調理の効率化等を鑑み学校給食施設の一元化について調査研究を行う。●南伊豆分校産野菜の給食食材採用により小高連携、地域の魅力の再発見が図られた。
			(7) 高等学校教育との連携	学校教育係	●地元の下田高校南伊豆分校との交流、連携を目的とし南伊豆認定こども園との農業体験交流、南中小学校との給食交流、南伊豆中学校生徒の農芸祭見学等を行った。●南伊豆分校の更なる魅力化を目的とした魅力化推進協議会を2月に開催した。 ●最近では、こども園のみならず、小中学校との交流も深まってきた。地元で活躍できる人材の育成につなげていきたい。●当該年度は諸般の事情により1回の開催にとどまった。会議の方向性について課題がある。
			(8) 青少年健全育成	社会教育係	●夏季休暇、年末年始休暇時に関係機関と協力し、町内補導パトロールを実施した。「青少年問題協議会」を2回開催した。 ●特に問題も生じておらず、現状のまま継続したい。

Ⅱ－３ 平成31年度 南伊豆町教育委員会の自己点検・評価シート

大項目	中項目	小項目	細項目	担当係	点検評価 (上段：実績 下段：評価)
③ 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務	ふるさとを愛し、心豊かな人を育む	2 生涯学習社会の実現を目指し、町民が活用しやすい学びの場や環境を整備します	(1) 学習機会の充実（小学生～高齢者）	社会教育係	●小学生対象事業（ふるさと学級内のサマーキャンプ、コットンプロジェクト、ニュースポーツ体験（無回転卓球等）を核としながら、ハローボランティア事業（小中学生対象）、教育文化講演会「記録上最初に北アメリカに上陸した日本人子浦出身音吉の生涯について」等を実施した。ふるさと学級については荒天等の事由により中止となった事業が多かった。 ●地元にある題材（ジオ、農林水産業等）を活用した事業を展開し、地元を見直すことにより、成人は地元講師として人材活用し、小中学生は将来地元で活躍する人材となるよう育てていきたい。
			(2) 図書館の利用推進	社会教育係	●2020年に詩人石垣りん氏の生誕100年を迎えることから、記念事業について開催日時、内容等を決定した。 ●ハード面において老朽化に伴う雨漏り対策が課題●記念事業についてスケジュールを確立し早めの周知を図っていきたい。
			(3) スポーツ・レクリエーションの振興	社会教育係	●スポーツ人口の底辺拡大のため、「フェスタ南伊豆」とともにスポーツフェスタを実施。多くの町民が軽スポーツを楽しんだ。●静岡県市町対抗駅伝競走大会への参加及び青野川ふれあいマラソン大会の開催により長距離走の普及に努めた。 ●スポーツフェスタについては、現在役場庁舎裏の駐車場にて小規模に実施している。今後、生涯スポーツの町民への浸透を深めるため体育協会と協議しながら開催場所・規模の拡大等を検討していきたい。●駅伝競走大会、マラソン大会については、広く町民に浸透しており、今後はこの大会から県内有数のランナーを輩出出来るよう教員をはじめ、指導者のスキルアップの機会を提供していきたい。●町内のスポーツ団体の中心となる体育協会について自発的に、より活発な活動が展開できるよう支援していきたい。
			(4) 生涯学習環境の整備	社会教育係	●町内で教育委員会が所管する社会教育施設は、図書館、武道館、官前テニスコート、郷土資料館別館であるが、必要に応じてトイレ修繕、立木の枝剪定、テニスコート修繕等を実施した。なお、武道館については30年度からシルバー人材センターへ施設の管理を委託している。 ●上記施設は経年劣化によりいずれも不具合が生じてきているため、今後は公共施設長寿命化計画に則り、適正な維持管理に努めていきたい。
			(5) 歴史・文化資源等の活用	社会教育係	●教育文化講演会として静岡県教育委員会県史編さん室指導主事福原章浩氏を講師として「歴史上最初に北アメリカに上陸した日本人子浦出身音吉の生涯について」を演題として講演会を実施した。 ●町ボランティアガイド協会、日本考古学協会員外岡龍二氏の協力を得て郷土館1階に日詰遺跡出土品等展示室を開設した。 ●講演会は盛況（来場者120人）であり、町内の歴史に興味のある者の多さに驚嘆した。●展示室開設につき、今後は町内外への周知を徹底し来館者の増加を図っていきたい。
			(6) 文化活動の推進	社会教育係	●町文化協会が中心となり、芸術祭を開催し、町内文化の振興に努めた。芸能部門発表会については新型コロナウイルス感染拡大に伴い中止とした。●南伊豆町史編さんについて南史会に業務委託し事業を進めた。作業は若干遅れ気味である。令和3年度に第3集を発刊予定。 ●芸術祭、芸能部門発表会の開催については、バックアップを教育委員会事務局が行っている。会員のほとんどが高齢者であることからやむをえない面もあるが、文化協会自主事業として自主運営の方で進めていきたい。●町史編さん業務は遅れはあるが進んでいる。令和3年度末には第3集発刊の運びとなる。

※ 大項目③の教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務における中項目、小項目については、「南伊豆町教育」の目標及び方針による。

Ⅲ. 点検・評価への学識経験者の知見

前掲の学識経験者3名の方々にお集まりいただき、「南伊豆町教育委員会 自己点検・評価報告書」（案）に基づき説明し、委員各位から感想や意見をいただいた。以下はその指摘事項をまとめたものである。

【指摘事項】

（１）教育委員会の活動

①「教育委員会会議の運営改善」

- ・業務に支障がないものであれば、教育委員会会議への係長の出席は継続していただきたい。

②「教育委員会と首長との連携」

- ・町長が学校訪問することは良いことである。様々な面で学校教育に協力願いたい。

（２）教育委員会が管理・執行する事務

①「教育行政に関する一般方針を定めること」

- ・「南伊豆町教育大綱 南伊豆町の教育の教育 概要版」は保護者への配付を検討していただきたい。

②「重要な工事に関すること」

- ・中学校普通教室に設置した空調については、学校再編を考慮し設置及び取り外しがしやすいものにしたとのこと。無駄にならないように活用されたい。

（３）教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務

①「幼児教育」

- ・こ小連携（こども園と小学校との連携）は大いに進めていただきたい。こども園と小学校がスムーズに接続できる環境を作っていただきたい。

②「学校教育全般」

- ・登下校時のこどもの安全を守るための「ながら見守り」啓発チラシの各戸配付は効果的と思われる。継続実施されたい。

③「スポーツ・レクリエーションの振興」

- ・選手不足に悩む「市町対抗駅伝競走大会」への合同チームでの参加も視野に入れて検討をお願いしたい。
- ・スポーツ・レクリエーションの振興については、スポーツ推進委員を上手に活用されたい。

④「歴史・文化資源の活用」

- ・郷土館 1 階に日詰遺跡出土品等展示室開設は当町の魅力を発信するうえで大変よいこと。その周知にも努力されたい。

(4) 教育委員会事務局全般

地球規模での新型コロナウイルス感染拡大の影響は当町内にも及び、学校では3ヶ月弱に及ぶ長期休業、それが明けてからの授業対応及び消毒作業で「教員の多忙化の解消」という目標とは裏腹に教員の業務は増加している。子供たちにおいてもイレギュラーな長期休業からの学習への不安、人との接触制限からの交友関係を構築できない不安・在宅時間が長くなったことからの家族間トラブル等様々な課題が発生した。地域においては3密を回避すべく、人が密集するイベント等の中止、営業活動の自粛等、今まで経験したことのない事態への対応に迫られている。

このような状況下、事務局においても職員が少ない中よくやっているという印象は受ける。「中学卒業時『将来賀茂地域に帰ってきたい』と思う子どもの割合」が減少していることから、賀茂地域1市5町においても子供たちが「賀茂地域に帰ってきたい」と思えるよう、地域の魅力を伝える教育を充実させることが「賀茂地域教育振興方針」の施策の方向性にも示されている。

町の教育大綱である「南伊豆町の教育」においても「ふるさとを愛し、心豊かな人を育む」を目標に掲げており、町としても将来ふるさと南伊豆町に帰って来る子供の育成に努めている。

学校教育、社会教育ともにその目標を念頭に、時代の流れである広域連携での効率的かつ効果的な事業運営で目標達成に邁進されたい。